

公同通信



2017年1月27日 245号(454号)

日本基督教団 西宮公同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22 TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044, Email koudou@gamma.ocn.ne.jp http://koudou.jp/ 振替 01170-3-4901

To tell the story 143

「ロンドンから、こんにちは」

5月にロンドンに引っ越ししてから、 早7ヶ月。残りの生活も2ヶ月ほどにな ってしまいました。こどもたちと日本と 変わらず、騒がしく生活しています。 綾奈と結翔は、ロンドン日本人学校に通 っています。日本とはあまり変わりなく、 日本人の先生、友だちに囲まれて、楽し く学校生活を送っています。日本の学校 と違うところは、授業が1年生も含めて 全学年が毎日6時間授業で、帰るのが16 時過ぎになること。また、英語の授業も かなりある点で、ふたりとも英語に興味 をもって、勉強しています。

また、日本人学校は、生徒数が少ないこ

ともあり、他学年との関わりが多く、学 年関係なく、知り合え、交流する機会が 多くあります。結翔の友だちと綾奈が、 学校で遊ぶ機会があったり、その反対に、 綾奈の友だちと結翔が関わったりと、た てのつながりも強く、いい点だと感じて います。

学校までの行き帰りは、4年生までは、 こどもだけでの登校は禁止されているの で、毎日送り迎えをしています。ロンド ンは、くもりの日も多いですが、空が本 当にきれいです。朝、飛行機雲がたくさ ん走っている澄んだ空に感動しながら登

時代にふり回されるのではない あの時 心を躍らせて生きた 後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、 笑い 泣き 歯ぎしりをした

今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、 自分の人生を語ってほしい、 自分の人生を語ってほしい 自分の人生を語ってほしい

校しています。今は家を出るときは、まだ暗く、空がだんだん明るくなっていく様子を見ながら、学校やともだちの話をしたり、ふたりがけんかしたりと、にぎやかに歩いています。お迎え時の、こどもたちの授業を終わるのを待っている間のお母さんたちのおしゃべりは、幼稚園のお迎えのようです。

総太はというと、9月から現地のナー サリーに通っています。初めは泣かずに 楽しく通っていましたが、週2日と少な いことと、現地の先生で環境が違うこと、 母子ふたりの時間が長かったことがあっ てか、ナーサリーに行くときには、行き たくないと言って、よく泣いています。 すぐに泣き止むようで、帰りは楽しかっ たと言っていますが。ナーサリー初日は、 ぽっぽさんの帽子をかぶっていく!と言 い、ナーサリーに貼っている総太の写真 は、ぽっぽさんの帽子をかぶったもので す。そして、冬になり寒くなっても、公 同ズボンほど短くありませんが、短パン と靴下なしが総太がいいと言って、その 格好でナーサリーに行っています。寒い から長ズボン、靴下でと注意されること もありますが、総太もなかなか頑固で、 いやだと拒んでいました。

イギリスでのクリスマスは、イルミネーションがきれいでした。 ただ、毎年恒例の幼稚園での行事がなかったためか、今年はクリスマスという実

感があまり湧かなかったです。

こちらは、年を越してもツリーを飾っていたりするので、お正月という雰囲気もせずに、お雑煮を食べたぐらいで、いつもの日常を過ごしていました。

3月末には帰国する予定ですので、また決まりましたら、連絡します。 日本に戻りましたら、またよろしくお願いします。

(渡辺 玲子)



~どろんこと太陽~2016 西宮公同幼稚園の子どもたち

私と公同幼稚園との出会いは、2015年 の 5 月から始まります。 当時 ACTA でア ルバイトをしていた私は、アルバイト先 の店長の娘さんが公同幼稚園に行ってい たことを知りました。自然との触れ合い をとても大切にしているということ、冬 でも半袖、半ズボンの子どもがいること を店長さんの話やホームページで知って いく中で、とても興味を惹かれた私がい ました。そんな私の目にとまったのは、 「すべてを遊びにしてしまう」の一言で した。この言葉に驚きとそんなことがで きたらどれほど楽しいかとワクワクする 気持ちがとまらなかったことを今でも覚 えています。私はもっと公同幼稚園のこ とを知りたいと強く感じました。思い切 ってボランティアとして公同幼稚園に行 けないかと思い、電話をかけました。今 思うと、この電話をかけなかったら今の 私はいないのかなと思います。見ず知ら ずの私を公司幼稚園は温かく迎えてくだ さいました。

そこから始まった公同幼稚園の生活は、四季折々に果物や野菜等が収穫でき、楽しむ日々でした。それでも、"ただ食べるだけでは終わらない"のが公同幼稚園。「モノには同じ名前でもいろいろな形、大きさ、色がある」と、教えていただいたように、一つの食材にしても料理する前と後では全く違う姿を知ったり、子どもたちの手ぐらいのものから、腕をどれ

だけ広げても追いつかない大きさのものがあったり、様々な姿を楽しむ中で感じたのは、どうしてここまで子どもたちは興味を持ち、目を輝かせながら見ることができるのか。それは、様々なものを見る時間が自然とあるからだと強く感じました。苗植えから体験し、その育ちを真近で見ているからこそ子どもたちは植物の成長に目を向け、体験しているからだと感じました。

そして2016年4月、正式に公同幼稚 園の仲間入りをさせていただき、今まで よりも長く子どもたちと寄り添う時間 を持つことができるようになりました。 その時間は、"すべてを遊びにしてしま う"の世界に溢れていることをさらに深 く知りました。そんな素敵なひと時をさ らに彩っているのが、その時その時にあ ったぴったりの絵本とわらべうた!こ んなにもたくさんの絵本とわらべうた に出会うことができたのは公同幼稚園 に出会えたからです。図書館に行っては 小さな子どもたちの横で絵本を読んだ り本屋さんに行くと真っ先に絵本のコ ーナーに行き、「この絵本は今の生活に ぴったりだな」とか、「この絵本からこ んな遊びが広がりそうだな」などと考え ているうちに、気づけば何時間も本屋さ んにいることがあったりするほど絵本 が大好きになりました。大好きになった のは絵本だけでなくわらべうたもです。 わらべうたで遊ぶ日々は、子どもたちと の仲を一気に深めました。毎日どこから か聞こえてくるわらべうたは子どもた ちを引き込み、笑顔が広がります。「いっでも、どこでも、だれとでも」遊べるわらべうたの楽しさを知り、大好きな存在になっていきました。そんな楽しい日々を過ごしているうちにあっという間に一年が経とうとしています。

公同幼稚園での生活は私の世界観を大 きく変えました。今までの普段の生活の 中でも気づかなかったところに目を向け るようになりました。子どもとの散歩に 始まり後川での菅井先生の散策、そして 一年を通して楽しめる公同幼稚園の畑。 さまざまな場所で「見て、聞いて、触っ て」とこれらの体験をしたことで私の見 ていた世界はがらりと広がりました。今 まではただコンクリートのすき間から生 えてくる草花の姿でしかありませんでし た。それが今ではこんなにも強い生きざ まに逆に元気をもらえたり、「あんなとこ ろにまで生えてる! 」と、気づいたり、 「つぼみだった花がさいている!」と、 ひとつひとつを大切に見るようになりま した。そんな世界を子どもたちと見るこ とでともに発見し、ともに喜び、ともに 感動しています。目をキラキラ輝かせな がらたくさんの発見を教えてくれる子ど もたち。それが子どもたちなりの発想で

また、おもしろい。そんな大好きな子どもたちにかこまれながら、うれしいとき、かなしいとき、おもしろいとき、子どもたちの世界は様々に色づいて見えています。自分も毎日が発見と学びの日々。そんな日々のなかで変わっていくことができる自分に幸せを感じています。そんな新しい世界を教えて広げてくれた公同幼稚園で、これからも子どもたちとともに歩んでいきたいです。

(馬場 由希子)



日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会 毎月1日午前6時30分から 於:西宮公同教会集会室 教会学校 毎週日曜日午前9時から 於:西宮公同教会礼拝堂 聖日礼拝 毎週日曜日午前 10 時 45 分から 於:西宮公同教会集会室 聖書研究祈祷会 毎週第1・3水曜日午後7時から 於:西宮公同教会集会室 読書会 毎週第2・4水曜日午後7時から 於:西宮公同教会集会室 (早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016年4月よりしばらくお休みしています。)

得晴れの方福ちゃん さちか作









目睛いち福ちゃん きちかな









寄世場→社会的又かりな一が別く暮らすり町、



2016年12月18日(日)

教会学校

園庭で採れた"かりん"の実を、かりんジュースにするために、スライス! とにかく固い!

怪我をしないように、大人の人に助けてもらいながらも、丁寧に切っていきました。消毒した瓶に、大量の砂糖とスライスしたかりんを交互にサンドしながら詰めていきました。2週間ほどで、甘い汁がたっぷり出てきます。

年が明けて初めての教会学校の活動では、それをお湯で割ったホットかりんジュースを頂きました。ほんのり甘くホッとする味でした。





2016年12月20日(火)10時~12時

教会学校・クリスマス会

菅澤先生から平和について大切なお話を聞きました。その後、「教」「会」「学」「校」の文字クイズ!漢字だったので、少し難しかった?いえいえ、ちゃーんと答えてくれたお友だちもいましたよ。

2016年12月20日(火)10時~12時

カレンダー会議クリスマス会

今年もお疲れ様でした。と、一年の労をねぎらい、クリスマスランチをみんなでいただきました。





2017年1月8日(日)

教会学校

新年初めての教会学校!抽選券の年賀状を持って、みんな集合!

園舎2階では、2チームに分かれてカルタ大会!お手付きは、1回休憩!みんな真剣勝負でした。最後は、「足で取ること!手はなし~!」 いろんなサイズの足が入り乱れて、もうタイヘン!





2017年1月12日(木)12時~

カフェあめかぜ

西宮公同教会集会室

新年初めてのピザランチでした。地域の方々 も大勢集まってくださり、楽しい時間となりまし



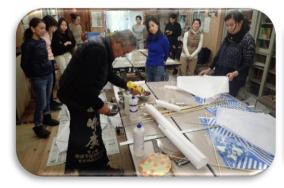


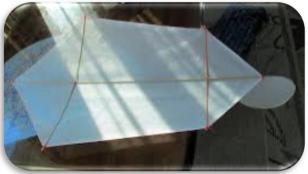


2017年1月13日(金)9時~12時ごろ

彦一凧作り講習会

1月21日(土)武庫川河川敷である「公同たこあげ大会」に向け、"彦一凧"を作りました。1本糸目で、グライダーの飛行原理を応用し、上がれば高角度で1000m以上ぐらいまで大空へ舞い上がるそうです。





~あるがままに~

「順子先生の出会い日記」

3 年くらい前にまず新聞記事で出会っ た東田直樹さん。大学で「障害児保育論」 を担当していることもあり、魂胆丸見え の切り抜きを授業で紹介するところから の、出会いのスタート。そして ビッグ イシュー誌に月2の連載が始まったころ、 今度はそれの切り抜きもスタート。その 年の秋の深まるころに、宝塚で講演があ ると知り、ご本人に出会う機会に恵まれ た。あろうことに質問ではないけれど発 言までさせてもらった。次に 2014 年の 夏に「君が僕の息子について教えてくれ たこと」と題して1時間のNHKスペシ ャルが放映された。忘れもしない大雨の 日の夜の11時、途中で福知山の川の氾濫 だかのテロップが流れている。収録した ものをどれだけ講義で活用したか、「今ま でで一番いい授業だった」などとの感想 もいただき、まあわたしの情報集めと提 供が功を奏していると自己評価、なんせ 前向きですからね。その1時間が次にビ デオとして販売されることに。 その 2014 年テレビ登場から2年経って、彼はどう しているのだろう、忙しいということで ビッグイシューの連載も一旦終了となっ ていたし、などと思っていたら、去る12 月 11 日の夜にNHKスペシャルの番組 があることを知る。リアルタイムでまず 見る(宮原と羽生のスケートが気になり、 「キャリア」(ドラマ)の最終回は諦めて)、 翌日「保育者論」2 コマでも学生と見る ということで計3回。前置きがいつもの ごとく長いのですが、結論は「重い!」。

前回 22 歳の彼の発することばは「自分」 が中心に置かれていたものが多かった。 ところが 2 年経った 24 歳は発すること ばが厳しかった。

前回の時のディレクターだった人が寿命について聞かれて、いのちが限られているならどうしたいかというような問いに対して「いのちをつなぐ」と答えた。これは彼が癌での闘病という状況でもあり余命について、東田さんがストレートに訊ねたのだ。その答えに対して東田さんは、「いのちはその人が完結するものである」と答え、またいのちは人格をあらわしているというようなことを口にされた。

厳しさは自分にも向けられ、それでいて相手を重んじてもいる。

祖母が認知症で日々の家事などがなかなかうまくこなせなくなっている。彼の大好きなホットケーキをおばあちゃんが焼いてくれた。「たまご入れたかな」と、入れているにもかかわらず不安になったり「いまいちうまくできんかった」と嘆く祖母に、「昔と少し味が違うような気がする」「けれどおばあちゃんのホットケーキはおいしい」。

認知症だけれど自分ならおばあちゃんのことがわかるかもしれない、そう思っていたけれどおばあちゃんは今もおばあちゃんであると思い至る。

彼のために丁寧に入れてくれたお茶、

まだ熱いのに必死で飲む姿。そしておば あちゃんへの質問「もし迷子を見たらど うしますか」。少し考えたおばあちゃんは 「おばあちゃんが一緒におかあさんを探 してあげようね」と答えられた。モノ忘 れがひどくなり、一日の生活の様子には 周囲は不安になっているけれど、おばあ ちゃんは変わっていない、昔からの優し いおばあちゃんだ。自分に何かできるこ とがあるというより、おばあちゃんの横 にいることが大事だというふうに思った のだろうか。

できなくなっていることを周囲があれこれ論評するのではなく、そこにおばあちゃんがいることがどれだけ大事なのかを、懸命な彼の発信に感じさせられた。年老いていった両親を見ながらこの 10 数年思ってきたこと、今は4人のうち1人になった実母に優しくなれていないわたしですが、高齢、認知症などについてもいろいろ考えさせられた映像だったのでした。

1月、大学の後期が間もなく終了。15回を整理してみた。保育でもずっと思ってきていること、カリキュラムは先に作るのではなく、子どもたちとの日々の中で、できあがっていくもの、作り上げていくもの。先に作ったカリキュラムで子どもたちの時間が運営されていくわけではない。大学の授業もまさしくそうだと思う。一緒に授業を作り上げていく、そんな相手がいるから、そして相互作用があってできていくもの。今年の時間を大

事にしてそして来年また積み上げていき たいと思っている。

クリスマスコンサートにゲストとして 来てくださったフルート奏者の谷風佳孝 さん。終わって帰られるのを見送る時に、 「公同に来るときは必ず何か進化させて 来ようと思っている」と言われた。大事 にすること、伝えたいことの筋は変りは ないけれど、どれだけの工夫をするか自 分を進化させてくるか、そんな前向き、 謙虚な思い、わたしたちが及びもつかな いフルートに鍵盤ハーモニカにリコーダ ーにの名手であっても奢らない、高ぶら ないその姿勢と一言は心にぐっときまし た。それとひょっとして迎えるわたした ちがやはり進化したいと思って願ってい つも前を向いているからそう思ってくだ さっているとしたら。そう、新しい1年 をまたがんばろうと思わされたのでした。



「こうぞう版行動報告書」

冬を出歩くことが少なくなります。インフルエンザやノロウイルスによる感染性胃腸炎のリスク避けるため、近ごろ出かけることはありません。2年ほど前にインフルエンザの予防接種を受けたところ、副作用でえらいことになってしまいました。それからは、予防接種は受けていません。家ではエアコンと空気清浄機の加湿機能を使っています。

去年の春に買い替えた外出用車いすは、 長い時間乗ると体が前に倒れてくるので、 先日調節してもらいました。家の中で使 うものも外出用も同じメーカーなので調 節は同じようにできます。体の状態に合 わせて車いすの高さや角度調整は購入後 にもできるのがメリットです。自分の場 合、年々障害が重くなってきているので ありがたいこと です。

来月の 24 日から 26 日に沖縄に行く予 定です。

(下平 浩三)



教会の火曜日 10時から12時 於:西宮公同教会集会室

第1火曜日

わいわいお茶会

第2火曜日

ゆっくりと聖書を読んでみませんか

第3火曜日

読書会

第4火曜日

社会のこと、世界のこと

~♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから~

「アメリカでも奮闘しています」

新しい年を迎え、また気持ち新たにさせられて一年が始まりました。アメリカでは、年末年始の行事があまりありません。年が明けるときに、「爆竹」を鳴らしているご近所の方はありますが、それ以外に盛り上がっている様子は特にありません。都会の方では「Happy New Year!!」と言って乾杯してもりあがっている人たちもいるようですが、サンノゼはいたって静かです。あっという間にお正月になり、お正月気分もなく、あっという間に会社や学校が始まります。今年は3日から新学期が始まりました。

日本では年末ゆっくり年始の準備をし、まったりと大晦日を過ごし、1 日を迎えてしみじみ3日間くらいだらりと新年を祝い、家族と一緒にお餅を食べすぎながら駅伝を見る・・・、この新鮮な空気の中にものんびりした雰囲気があるのがお正月だと思っていましたが、こちらは中国や韓国出身の方々もたくさんおられ、旧正月をお祝いする文化があったりすることも重なってか、元旦1日は何もめでたい感じがしません。少し寂しいです。

ですが、私たちが所属している「ウェスレー教会」は、日系人の教会なので少し雰囲気は違います。あまりお正月を祝うということはしませんが、12月29日、30日は必ずお餅つきを行い、約1.5トンという大量のもち米でお餅を作り販売

します。その二日間は教会はお餅工場と 化し、もち米をふかし、機械で一度に大 量のお餅をつき、ものすごい勢いでお餅 を乾かし、パックする作業が教会の皆さ んの手で行われていきます。12月半ばか らはお餅の電話注文が始まり、電話当番 を交代でします。やはりこのように毎年 行われていく雰囲気が、「年末」「年始」 が近いことを感じさせてくれます。子ど もたちは恒例の「もちキャンプ」という デイキャンプが行われ、実際にうすや杵 を使ってお餅をついてみたり、お餅がど うやってできるのかその工程を見て回っ たり、実際に自分でお餅をまるめてみた り、食べたり、日本の新年にちなんだ工 作などをして、日本のお正月、そしてお 餅文化を学ぶ時を持ちます。

1月第2週目の日曜日には、毎年みんなでお雑煮を食べます。このお雑煮はウェスレー教会に代々伝わる秘伝のオリジナルお雑煮です。味や具材は関東風です。今は日系人も3世、4世の世代になっていますので、食生活もずいぶん変わってきていますが、それでもお雑煮は皆さんおいしくいただいています。

夫が牧師として働いている「日語部」 (日本人コミュニティー)のメンバーは、 3年前からお雑煮の昼食会の際に、日本 のお正月文化紹介を行うようになりまし た。2年前は西京味噌を使った「白みそ お雑煮・京都風」を特別に作り、日本全 国各地のお雑煮紹介を行い、また茶室を

設けてお抹茶を皆さんに味わっていただ きました。昨年は「沖縄風・ピーナッツ バター入りお雑煮」を作り、沖縄出身で 沖縄舞踊の先生をされている方に、踊り を披露していただきました。今年は特別 なお雑煮は作りませんでしたが、お正月 の伝統的な遊び「独楽回し」「羽根突き」 「福笑い」の紹介を行いました。独楽回 しはまだみなさんの前で披露できました が、「羽根突き」に限ってはかなり難しく、 なかなか続けて羽をつくことに苦戦しま した。お正月の伝統遊びを調べたり準備 したりする中で、昔は近所の友達や家族、 親戚が集まっていろんな遊びを通して交 わりをより深めていたことを思い起こす 機会になりました。今は親戚が集まって も、子どもたちはゲームや携帯電話で 個々に遊ぶことが多くなっているような 気がします。私たち自身の家族を見ても、 やはり大人中心の年末年始を過ごし、子 どもたちと一緒にのんびり遊んだり、ゆ っくり話を聞いたりする時間が少なくな っているように感じました。日本に一時 帰国した折に、おじいちゃんおばあちゃ んと双六をしたり、おままごとをしたり、 電車で出かけたり、よく子どもたちと一 緒に両方のおじいちゃんおばあちゃんが 遊んでくれたことを思い出します。お正 月に親戚一同が集まったりすることも面 倒で大変なこともありますが、今の時代 だからこそ必要なことなのかもしれない と感じた年明けでした。

(山本 知恵)

名護ぬ七曲(52) 「復帰」後の沖縄県政 5

【反戦地主による契約更新拒否】え~っと、前回は確か「米軍用地特別措置法」で土地使用期限が 1987 年 5 月まで延長された、というところで終わってたと思います。で、結局そこから更に 10 年延長されることになります。契約を更新するには当然ですが地主さんの署名が必要です。反戦地主と呼ばれる土地所有者はこの間100 名程度にまで減少しておりましたが、地主さんたちの中には契約更新を拒否する人たちもいて、そこから新たに反戦地主となる人たちも居たそうです。

【代理署名】地主が再契約の署名を拒否 した場合、当該市町村長がその代理とし て署名を求められることになります。市 町村長による代理署名が拒否された場合、 今度は県知事に対して代理署名が求めら れます▼地権者の所在が不明であるとか、 誰の土地か分からないとか、そういう理 由なら、まだこの「代理署名」も分からな いでもないのですが、所有者がはっきり しているのに、契約が拒否されたからと いって、それを越えて市長や知事に代理 で署名させるというその仕組み自体が、 私にとってはあまりよく理解できません。 まぁいろいろ細かい取り決めや手続きが あるのでしょうけれども、権力が個人の 意思を越えて代理で何でも出来るという のであれば、そもそも憲法の意味が無い というものです。基地のことに限らず、 道路やいろんな開発事業なんかもそうで

すが、いつもどこか強引なところがある のは、それもまぁ仕方のないことなのか もしれないのですが、しまいにはみんな のための公共の事業に協力しないのは悪 い奴だ-みたいな雰囲気になったり、テ レビや新聞までもがその人のことを"変 人"(良い言葉ではありませんがここでは お許しください) 扱いしたり…「道路が 完成しないで、みんなに迷惑を掛けてる のはコイツです。この偏屈オヤジです!」 と言わんばかりの報道ぶりに、恐ろしさ さえ感じます。そうやっていつの間にか 戦争に突入していったのではないですか ねこの国は▼今の沖縄に対しても「内地」 での報じられ方なんかを見ると、明らか に沖縄を"変わり者"扱いしているような 紙面もありますよね。安全保障に非協力 的な困った連中だと言いたいのでしょう か。「非協力的」だとは傲慢にも程がある というものです。これまでどれだけ協力 させられてきたことか、その為にどれだ けの負担や悲しい思いを強いられてきた ことか、私たちはきっとそれを知らなさ 過ぎるのです▼「金を貰ってるんだろう」 -とは侮辱の最たる言葉の一つだと私は 思っています。その金を差し出している のはヤマトです。受け取らなければそれ を「非協力的」と言い、受け取れば「強請り の名人」と言う。ともすれば仲間たちから さえ「奴は魂を売りやがった」と思われか ねない。どっちに転んでもダメなんだっ たら、私だったら…う~ん、受け取るか も。子どもたちにしっかりご飯を食べさ せて、学校にもやらんといけんですもん

ね。不安です。でもその過ちを一体誰が 責めることができるでしょうか。少なく とも金を差し出した人から「どうせ金貰 ってんだろう、恥を知れ」などと言われる 筋合いはありません▼こんなことばかり 続けて、恥を知るべきは私たちヤマトで す。私たちは多分自分が誰に対している かということさえ分かっていないのです。厳しい言い方だけれども、そ う言うより他ないように思います。もち ろん私もそんなヤマトの一人で、また私 自身がヤマトそのものであると言えるの かもしれません。

* * *

忘れてはいけないのですが、今これ、 沖縄史の大田昌秀知事の時代のお話をしているところです。で、今回は「代理署 名裁判」と「県民投票」のところまで行きたかったのですが、またしても辿り着けませんでした。なかなか素早く進められなくて申し訳ないのですが、続きは又次回ということでどうぞおゆるしください。 (羽柴 禎)





――めくるめく光と影のうつわ――松島朝義 琉球陶藝展

日時 : 2017年1月31日(火)~2月5日(日)

10時~17時

会場 : アートガレーヂ

〒662-0834 西宮市南昭和町10-19

展示: 第57回日本伝統工芸展入選作「琉球南蛮大皿」(56cm)、お猪口(3cm)など約70点

小黒三郎・組み木のお雛さまと武者人形



会期:2017年2月7日(火)~12日(日)

10時~17時

会場:アートガレーヂ

〒662-0834 西宮市南昭和町 10-19

平安時代に使われた「ひひな遊び」という言葉が残っているように、雛人形は貴族の子女の遊ぶ人形でした。 武者人形も、子どもが遊べるようには作られていません。子どもたちを祝う3月と5月の節句人形を、子ども自身の手で飾れるように作ったのが、ぼくの組み木の節句人形です。

大人に飾り方を教えられ、人形と遊ぶことによって、伝 統は受け継がれてゆくでしょう。

組み木デザイナー 小黒三郎

涙と笑いの吟遊詩人

リピート山中が歌う 「人と街の物語」コンサート



2月 19 日(日) 14 時開演 13:30 開場 西宮公同教会チャペルホール

チケット:

[前売]大人¥2,000、子ども(小中学生)¥1,000 [当日]大人¥2,500、子ども(小中学生)¥1,300

~ つとがわ・あれこれ ~

物事が起こっているその現場に身を置くということは、そこを逃れることが出来ない人たちの"喜怒哀楽"、時には命の危険を共にすることが避けられなくなることを意味します。だからこそ、そこで歴史が刻まれる事実の一端を伝えるのが"報道"というものの使命であり役割であるはずです。その現場に身を置くことから始まり、それを使命として生きる人たちがこの国で世界で足跡を残しています。

たぶん、この働きは、誰かに条件を整えて貰ってではなく、それを使命とする人たちによってのみ可能になります。報道の自由を保障されることによってではなく、身を賭して切り拓くことによって可能になる働きなのです。

「戦場記者が、現地に暮らした 20年ー中東の絶望、そのリアル」(リチャード・エンゲル/朝日新聞出版)は、中東の現場、イラク、エジプト、シリアなどの現場に身を置く時、そこにある"絶望が絶望の闘い"になっていく、そのリアルを伝え、突き付けます。どん

なに遠くても、世界はその喉元に突き付けられる「… 絶望、そのリアル」"からは逃れられないのです。

「フクシマの荒廃―フランス人特派員が見た原発棄民たち」(アルノー・ヴォレラン/緑風出版)は、福島で起こっている荒廃は、それをその現場を許すことでこの国の人間たちの荒廃になっていることを、現場に身を置いてえぐります。

(S)

毎年、年賀状を描いています。やはり、干支の絵を描きます。12種類で1周り、2巡目になると苦労します。アイディアがすぐに浮かぶ時や、なかなかまとまらないなど、様々です。大学生の時に、デザイングループというサークルに入部していた関係で、その当時の仲間たちから年賀状が今も届きます。デザインを少しかじった者たちなので、年賀状は楽しみです。少しでも手を加える人、毎年力が入っている人、みんなあの楽しかった、苦しかった時を想い出し感慨深いもの

です。ですので、僕も今現在の自身の年賀状を描きます。今年は、「酉年」とても苦労しました。どうしても鶏の形が頭に浮かばないのです。図書館に行って分厚い図鑑を借りたりしたのですが、どうしてもダメ。でも、ある時、不意に自分の手の平に鶏を乗せている図がひらめき、線描きで描きたかった自身の似顔絵とドッキングさせ、やっと今年の年賀状が完成しました。実に、12月26日でした。

(Y)

お正月のお休みに、まず鶏の組み木のデザインを考えることから始め、消しゴムハンコで鶏を作り、そしてショッピングに出かけた時には、鶏の何か可愛いグッズはないかと、金太郎飴の鶏を発見しプレゼント用にと 10 袋ほど購入し、美味しいからと母に勧められていた唐揚げを食べ、鶏づくしのお正月となりました。先日ちょうど誕生日も迎え、12 歳×○の酉年女になり、父の亡くなった年齢でもあるこの年を、また小さいころの事や、親となり子育てに奮闘中の自身を振り返りながら、これからもささやかながら誠実に過ごしていけたらと、年初めはまず静かに過ごしました。

(K)

1月17日、今年もこの日を迎えました。朝5時半に起きてNHKをつけ、5時46分に黙祷をしました。あれからもう22年。長かったようであっという間でした。でも確実に時は流れています。いろんな出会いがあっていろんな時間を過ごしてきて、私は今こうしてここで生きている。二度と戻らない今日という日を大切に、かみしめながらこれから先も生きていきたいです

私の住む茨城県も、地震がよく起こります。年末に 茨城北部で震度 6 弱の地震が起きました。私の住んで いる所は南部の方なので揺れはそんなにひどくはな かったですが、それでも長い揺れにずっとイスにしが みついていました。友人や公同の方々から大丈夫かと すぐにメールを下さり、ホッとして嬉しい気持ちでい っぱいでした。でも本当にいつどこで何が起こるか分 からない世の中。その時のために準備はしっかりして おかないと、と思っています。 みかんが大好き。水やお茶代わりに食べている。喉がすっとするし、冷たいみかんは身体をすっきりさせてくれる、便秘にならない、身体にいい(と信じている)

家の中で誰も食べない。5キロの箱が届き(この三ケ日おいしかった)、次に静岡の10キロをいただき、最後はこれは正月前に買った有田の一箱。着々となくなっていくのを目にしながら、ふと思い立って管理栄養士なる人に尋ねてみた。手が黄色いのはみかんをよく食べるからとは言われているけれど、身体に何か不都合なことってあるのかと。「中性脂肪が増える」、えーっそれは聞いていなかったぞ。果物は朝は金、昼は銀、夜は銅、朝に食べるのはいいけれど夜はダメとはうるさく言う奴がいるが。

そうか、そう肉などを食べるわけではないのに、中性脂肪の値が他のものに比べて高いのはみかん、あなたのせいだったのね。果物何でも大好きなのにどうする?(と言いつつ相変わらず食べている)。

テレビで何度も流れる「沈黙―サイレンス」の情官 を見ていて思い出した。刊行50年ということだった が、遠藤周作の本を読んで何と県知事賞を受賞し現代 国語の先生と船で淡路島の高校で行われた授賞式に 行った高校生の時のこと。いやいやあんなこともあり ましたねと思っていたら、つるつると浮かんできた読 書感想文一連、「アンネフランクの日記」で中高(中 学2年、私立だった)の校内で2位になった。で、次 に思い出した!「破戒」でも書いたなあ。いやいやな かなかの社会派だった。大学受験で目指したのは社会 福祉、高校の社会科教師になろうと思っていた(確実 な過去形)。「愛を乞う人」も話題になっているが、原 作を読んでしばらく「虐待」のテーマの講義に使って いた。映像は見れないと思っていた。で、今はどの本 も原作をとても読む気になれない。書いたりしゃべっ たり、すべては「若気の至り」のような気がしている。 もう一つ思い出した!中学の社会の先生がなかなか の人、でその私立を去っていかれたが、その人を赴任 された先を訪れている。あの人の影響だったか。

(J)

カット (A・T)

(C)

政治・宗教思想研究会/関西神学塾

《今後の講義予定》

2月10日(金)勝村弘也先生「申命記史書を読む」(47)